

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		合同会社ココロザシ 放課後等デイサービス ノビルチカラ		公表日		2026年3月16日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	屋外遊びの活用		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	4		利用者が多い日や、手厚い個別対応が必要な際には人員が手薄に感じることがあるため、効率的な人員配置の工夫や、継続的な採用活動を進めていく必要がある	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	室内の段差をなくし、安全で移動しやすい環境づくり		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	毎日の床・トイレ・手洗い場の清掃を行い、清潔な生活空間を維持		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	団体活動から離れてクールダウンできるスペースを設け、パニック時や静かに過ごしたい時に活用		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	3	職員向け連絡ツールを利用して朝礼内容の送信を行なう		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9				
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	3	日々の活動記録や職員向け連絡ツールを活用し、職員間で情報共有を行ないながら個々の発達段階に応じた支援に繋げる		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	2			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9				

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	2		マイクラフト等の個別活動を好む子どもと、畑での集団遊びを好む子どもがいるため、一人ひとりの特性を見極め、個別と集団の活動に無理なく参加できるよう声かけやプログラムの導入を工夫していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	2	始業前や送迎前のミーティングを活用し、当日のプログラム内容や個々の子どもへの配慮事項、役割分担を全職員で確認・共有している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	支援終了後、打ち合わせができない時でも、気になることがあればすぐに報告したり、翌日に振り返りの時間を設けている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	4		過去に利用していた施設からの直接的な引き継ぎが不十分なケースがあるため、アセスメント時に保護者を通して以前の様子を詳細にヒアリングするなど、情報収集の工夫を行っていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	4		現在は事業所内での活動が中心となっており、地域の子どもたちとの交流機会が不足している。今後は地域のイベントへの参加などを検討していきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3		事業所主催での家族支援プログラムの実施には至っていない。まずは保護者懇談会の開催や、外部の有益な研修情報の提供などから始めていきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		保護者の方から相談があった際には、面談をする時間を設けるなどの対応	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	5		保護者同士が交流する機会を十分に設けられていない。今後は、保護者参加型のイベント（畑での収穫祭やマイクラ作品の発表会など）を企画し、自然に交流できる場を作っていくたい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		SNSを活用し、日々の子どもの様子を発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	2		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3		現在は事業所内や自社の畑での活動が中心となっているため、今後は畑で採れた野菜を通じた近隣との交流や、地域の清掃活動への参加など、無理のない範囲で地域社会との接点を増やしていきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2		職員全員の参加が難しい場合には、改めて訓練を行なう機会を設け、職員全員が対応できるようにしていきたい
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	2	事前の面談や定期的なヒアリングを通じて保護者から健康状態等の情報を細かく収集し、全職員で共有した上で安全に対応している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	2		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1	ヒヤリハットが発生した際には記録を作成し、職員間で共有することで、原因を分析し、再発防止に向けた対策を行う	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	2		やむを得ない場合の対応方針について、全職員で改めてガイドラインを読み合わせし、認識を統一するとともに、保護者へ事前に丁寧な説明を行えるよう手順を再確認していく	